

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考・監察会議（令和4年度第1回）議事要旨

- 1 日 時 令和4年6月7日（火） 15：05～17：05
- 2 開催方法 オンライン
※奈良会場を設置
（奈良会場）奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
- 3 出席者 小山、田中、手代木、板東、藤沢、小谷、梅田、井上、河合、寶學の各委員
出席監事 西村監事、春本監事
陪席者 松山企画・教育部長、蜂谷企画総務課長
- 4 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
令和4年度学長選考・監察会議委員一覧
資料2 議長の選出及び議長代行の指名について
資料3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考会議（令和3年度第4回）議事要旨（案）
資料4 令和4年度における学長選考・監察会議の日程等について
資料5 学長の任期1年目（令和3年度）の業務執行状況について
参考資料1－1 学長の業務執行状況の確認方法
参考資料1－2 学長、監事等に対するヒアリングの実施時期及び手順
参考資料2－1 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）
参考資料2－2 令和3年度監事監査報告について
参考資料2－3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長候補者抱負
参考資料2－4 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考基準
参考資料2－5 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 中期計画
机上資料1 令和3年度の主な取組について
机上資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学長の業務執行状況の確認結果について（案）

5 議 事

開会にあたり、事務局から、本会議は委員の選出後の初回の開催であるため、議長が選出されるまでの間は、事務局にて議事進行を行うことの説明があった。

（1）令和4年度学長選考・監察会議委員について

事務局から、資料1に基づき、学長選考・監察会議委員の選出方法の説明が行われた

後、学長選考・監察会議委員の紹介を行った。

(2) 議長の選出について

事務局から、資料2に基づき、本会議の議長の選出について説明が行われた後、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考・監察会議規程第4条第1項の規定に基づき、委員の互選を行った。互選では、学内委員から、従前のように学外有識者の委員からの選出が望ましいこと、昨年度までの学長選考会議からの議論の継続性などの点から、昨年度の学長選考会議において議長の経験を有する小山委員を議長に推薦したいとの発言があり、審議の結果、小山委員を議長に選出した。

(3) 議長代行の指名について

小山議長から、本会議の議長代行の選出について説明が行われた後、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考・監察会議規程第4条第3項の規定に基づき、小山議長の指名により、手代木委員を議長代行に指名した。

(4) 学長選考会議（令和3年度第4回）議事要旨の確認について

小山議長から、資料3の学長選考会議（令和3年度第4回）の議事要旨（案）について、既に昨年度までの学長選考会議委員による確認が済んでいることの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(5) 令和4年度学長選考・監察会議の開催日程について

小山議長から、資料4に基づき、令和4年度学長選考・監察会議の開催日程及び審議事項等について説明を行った。これについて特段の意見等はなかった。

(6) 学長の任期1年目の業務執行状況について

小山議長から、資料5に基づき、塩崎学長の任期1年目（令和3年度）の業務執行状況の確認の方法について説明があった後、西村監事及び春本監事に対するヒアリングを踏まえ、塩崎学長に対し業務執行状況のヒアリングを実施し、質疑応答を行った。

監事に対するヒアリングでは、西村監事及び春本監事から、塩崎学長の業務執行状況について良好であった点として、「共創」をキーワードとした「学長ビジョン2030」のもと、大学全体の運営、教職員の戦略的な人事、働き方の改善等に係る多くの施策の立案及び諸対応を非常にスピーディーに、かつ、学内外に分かりやすく提示しながら推進した実績が挙げられ、本学がより良い方向へと変わっていく前兆が感じられるとの意見があった。また、学内の教職員と共に大学全体を盛り上げ、最先端の研究及び教育を推し進めていくという塩崎学長のスタンスは、他の大学にはない本学の特徴となるのではないかとの意見があった。一方、留意すべき点として、「女性活躍推進法に基づく行動計画」において設定した女性教員比率の目標がやや消極的であること、女性幹部教員比率、障害者雇用比率及び社会人学生比率が他の国立大学に比して相対的に低いことについて指摘があった。これについて、「学長ビジョン2030」において多様性を全面に押し出していることを鑑み、今後の改善を期待するとの意見があった。また、

大学の重要なステークホルダーである同窓会との関係強化は塩崎学長の就任以前から抱える課題であり、その取組の推進が望まれるとの意見があった。

学長に対するヒアリングでは、参考資料2-3の「国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長候補者抱負」並びに当日配付の「学長ビジョン2030」及び机上資料1「令和3年度の主な取組について」に基づき、令和3年度に取り組んだ具体的な業務について、塩崎学長から説明が行われた。

質疑応答では、学外委員から、本学の学生募集に関する課題について、リカレント教育への取組がまだ十分に進んでいない印象があり、デジタル技術によるオンラインの環境も活用しながら社会人の学びやすい環境を整備することが望ましいのではないかと意見があった。これに対し、塩崎学長から、学生募集は自身の学長就任時からの大きな課題として認識しているとした上で、リカレント教育については企業が求める再教育との間に大きな隔たりがあることを問題点として把握しており、本学が参加している産学連携フォーラムにおいて、リカレント教育の内容について当該フォーラムの参加企業と具体的な議論を進めることとしているとの回答があった。また、文系の学生も学生募集のターゲットにしていくべきではないかと意見が学内からあったことについて説明があり、そのアピールの方法等について令和4年度中に具体的なアイデアを提示したいとの回答があった。

他の学外委員から、広報活動の効果が学生獲得に表れづらい状況下における、学長としての広報に対する思いについて質問があった。これに対し、塩崎学長から、大学のトップとして学長自身が先導するような広報活動が非常に重要であるという強い思いに基づいて広報活動に取り組んでいるとの回答があった。また、SNS等で本学の名前の登場数が上昇している例を取り上げ、ある程度の成果を感じているとの回答があった。

更に他の学外委員から、大学の中におけるコンプライアンスに関し、現状の分析と懸念点等について質問があった。これに対し、塩崎学長から、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントは本学においても教育機関として注視すべき課題であることを認識しているとの回答があり、これに関して学生との懇談会や学内のアンケートを通して得られた意見が「共創コミュニティー宣言」の策定に繋がったことが説明された。また、この宣言を本学のコミュニティーの理念として、今後、様々な研修等をはじめとした具体的な取組を実施していきたいとの説明があった。この質疑応答に関連して、当該質問をした委員とは別の学外委員から、近年、研究活動やその成果の活用・実装の分野において、プライバシー、個人情報、差別に繋がらないようなAIの使い方等、コンプライアンスに関わる様々な視点が求められていることから、その意識や感性を教育において広く推進する必要があるのではないかと意見があった。

当該意見を述べた学外委員からは、更に広報戦略に関して、山中伸弥教授のような本学から他大学等へ転出した教職員について、その現在の活躍ぶりを可視化する等、本学の幅広いコミュニティーとして広報戦略に活用できるのではないかと意見があった。また、令和7年に開催予定の大阪・関西万博の機会を利用した広報活動など、今後様々な可能性が広がるのではないかと意見もあった。これに対し、塩崎学長から、かつて在籍していた教職員に本学の広報戦略の中で活躍いただくという取組はまだ実績がないことから、貴重な意見として採り入れ、新たな方向性として取り組んでいきたいとの

回答があった。

質疑応答終了後、塩崎学長退席の上で審議の結果、塩崎学長の任期1年目（令和3年度）の業務は適切に執行されていることを確認し、当日配付の机上資料2の「国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学長の業務執行状況の確認結果について（案）」のとおり、本会議の閉会后、小山議長から塩崎学長へ文書により通知することとした。また、小山議長から、参考資料1-1の「学長の業務執行状況の確認方法」の定めに基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学のウェブサイトにおいて当該文書を公表することが説明された。

以 上